

令和6年度三重県支部総会俳句大会の成績

日時 令和六年五月二十三日（木）

会場 三重県総合文化センター

【応募句】

土肥 あき子選

特選 剥製の喉のほころび冴返る

梅枝あゆみ

ふらここの重りとなりて揺られゐる

伊藤 孝子

入選 快慶の獅子に残る朱春の雷

森岡 秀美

遠ざかる遠足砂の城崩れ

近藤 昶子

青空に呼ばれるやうに揚雲雀

豊田麻佐子

拜殿は馬引溜り春祭

伊藤 孝子

おみくじを二人で開く若葉光

吉田 詮子

降り出しの雨の匂ひや遠蛙

豊田麻佐子

線描の筆やはらかし初燕

久世 伸子

生まれたる蝌蚪に琵琶湖の果てしなし

石井いさお

膝折りてにれかむ孕鹿薄目

岡島 千秋

花の道行くまつ新のランドセル

服部登紀子

坂口緑志特選

新樹光織り込み御衣織りにけり

森田 久枝

西田誠特選

若布船舳先もたげて戻りけり

山崎 馨

福山良子特選

昼の月よりひらひらと竹落葉

森 多恵子

橋本石火特選

海苔粗朶の大海原へ突き出せり

山中 綾

平田冬か特選

青空に呼ばれるやうに揚雲雀

豊田麻佐子

山中悦子特選

大漁の無線が先に鯉船

西尾 敬一

芦田 昌男特選

見え隠れして春耕の人の影

渡邊 健

前田照子特選

海蝕の迫る海女みち花海桐

山口 八重

森下充子特選

昼の月よりひらひらと竹落葉

森 多恵子

高得点句

昼の月よりひらひらと竹落葉

森 多恵子

若布船舳先もたげて戻りけり

山崎 馨

降り出しの雨の匂ひや遠蛙

豊田麻佐子

店先に湖の風入れ諸子魚焼く

塗矢智恵子

新樹光織り込み御衣織りにけり

森田 久枝

おみくじを二人で開く若葉光

吉田 詮子

快慶の獅子に残る朱春の雷

森岡 秀美

新海苔の水の重みを水揚げす

宇田多香子

箆に盛りほまち稼ぎの浅蜷売る

奥 安則

膝折りてにれかむ孕鹿薄目

岡島 千秋

さざなみのゆきつくところ葦芽ぐむ

吉田 詮子

【当日句】

土肥あき子選

特選 堤防に等間隔の日傘かな

川口 漣童

蜷の道昨日に今日を継ぎ足して

石井いさお

入選 薫風にからくり時計動き出す

山中 悦子

しやぼん玉消失といふ壊れ方

伊藤 孝子

買ふよりも捨つるに力更衣

古川 和子

白シャツの自転車風を追ひ越せり

小林たみ子

数式解く板書の音や新樹光

山中 悦子

あめんぼに体重といふ小さき凹
船底に踏ん張る足や蜷搔く
雲の峰乗せて水平線曲がる
折折に鳥語絡めて滴れり
草箒持ちて螢を追ひしこと

坂口緑志特選

ほんのりと紅差し崩る白牡丹

山本 孝子

宮田正和特選

齋宮寮野花しようぶは濃紫

村田なよみ

石井いさを特選

しゃぼん玉消失といふ壊れ方

伊藤 孝子

福山良子特選

草箒持ちて螢を追ひしこと

宮田 正和

橋本石火特選

昏れきつて闇ふくらます遠蛙

水野 悦子

平田冬か特選

滴りをつなぐ見えざる水の糸

石井 洋子

山中悦子特選

泥濘の一步は重し田草取

梅枝あゆみ

芦田昌男特選

花は葉に遠山の肌整ひぬ

田坂 成子

前田照子特選

挨拶のトーンの上がる更衣

林 里美

森下充子特選

ががんぼの足折れさうな折れてをり

前田 照子

高得点句

蜷の道昨日に今日を継ぎ足して

石井いさお

昏れきつて闇ふくらます遠蛙

水野 悦子

朝掘りの筍水の割れる音

松葉ツヤ子

しやぼん玉消失といふ壊れ方
滴りをつなぐ見えざる水の糸
島は今駐在さんも若布干す
泥濘の一步は重し田草取
車椅子波へ押し出す海開
船底に踏ん張る足や蜷搔く
鳶舞うて五月の空を押し広ぐ
麦秋や伊賀に芭蕉の遺髪塚

伊藤 孝子
石井 洋子
平田 冬か
梅枝あゆみ
西尾 敬一
水谷 洋子
松村 正之
宮田 正和